

荻窪病院だより

医療法人財団 荻窪病院 広報誌

2021年7月1日発行

発行責任者:村井 信二

企画/編集/印刷 地域連携室

〒167-0035

東京都杉並区今川 3-1-24

代表 TEL:03-3399-1101

地域連携室直通:03-3399-0257

足の診断・治療センター/整形外科 医師

関 広幸 せき ひろゆき



初診では、痛む足だけでなく、両ふくらはぎの筋肉も確認。痛む方のふくらはぎが細く萎縮していれば、相当傷みが強いと診る。痛みをかばうため、筋肉が使えていないからだ。

手術が必要なのか、ストレッチや靴の調整で治まるのか 「足の痛み」には早期に指針を出し、まず患者さんの 不安を取り除くのが専門医の使命だと考えます

足首からつま先を診る「足の診断・治療センター」には、近隣医療機関から紹介された多くの患者さんが治療に來られます。今回は患者さんの訴えで一番多い「足の痛み」の診療について、足の専門医である関広幸医師に話を聞きました。

**診断が困難な「足の痛み」
病名がつかないケースも多い**

「足の痛みの診断って、実は難しくですね」と関医師。

「足の手術で治るような、整形外科的な病名がきちんとつくケースは、実は少ないんです。首や腰の病気から、また内科的な病気から足に症状が出ることもあり、いろいろな病院に行っただけで診断がつかないという患者さんは多くいらっしゃいます。

私自身も全てを診断できるとは思ってはいませんが、足の専門医としてまず診るのは、その患者さんの足の痛みが、手術で治るものなのか、整形外科的な病名がつくかどうかです。しかし実際は、靴が合っていない、筋肉が硬くて痛みが出ているケースも多くあるんですね。ですので私は足の痛みに対しては【早期に治療の指針を示すこと】を大切にしています。手術で治るのか、靴の調整で、ストレッチでよくなるのか、道筋を



今年4月に着任した関医師。現在の趣味は「子どもと遊ぶこと」。
日本整形外科学会整形外科専門医
日本足の外科学会 評議員

立て明確に患者さんに示すことが大事だと考えます」。

長引く足の痛みはどう対処するか早期に伝えることで、治療に対する患者さんのモチベーションも上がり、生活上の注意点を守ろうとする気持ちも強まります。「治るかどうかわからないまま過ごすのはつらいじゃないですか。これをすれば改善の見込みがあります」と指針をしっかりと示すのが専門医の使命と思っています」。

**患者さんの「ゴール」によって
変わってくる治療方針**

指針を示すのに大事なものは、患者さんが何を求めているのか、治療のゴールがどこにあるのかを患

荻窪病院は
地域医療に
貢献します

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。



基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。



とも多いので、
そういったこと
もしっかりお話
します」。

者さんと一緒に確認すること。
「足に痛みが出る疾患のひとつに【外反母趾・がいはんぼし】があります。靴を履くと痛いのか、裸足の時でも痛むのか―靴を履いた時だけ痛むのであれば、まず靴を調整することで痛みを和らげます。それでよくなれば手術の必要はないわけですが、見た目の問題から患者さんに指の変形も治したいという希望があれば、その時は手術しかありません。ですので、患者さんが何を望んでいるのか、よく話をお聞きし、相談した上で治療方針を決めます。

手術後に多少の違和感や動きの制限が出ることはあるのですが、そこをどこまで患者さんが許容できるのか。また術後のリハビリテーションや靴の履き方などの生活上の注意を守れるか―患者さん自身に頑張ってもらわなくてはならないこと

「捻挫を繰り返すことで足の外側のじん帯がゆるみ、関節のすきまにある軟骨が削れていつてしまつて、痛みが出る病気です。後ろから見たとき、かかとが内側に傾いてしまつてい

る方が多いです。治療は手術か装具の着用となります。変形性足関節症で大事なことは、全員が全員同じ手術をしてもよくならないという事です。注意深くCTやMRIを撮り、変形の程度や内科的な合併症の有無も考慮し、これまでの治療経験から得た選択肢の中から、その人に適した術式を選びます」。

変形性足関節症の手術は大きく分けて①骨切り術 ②人工関節置換術 ③足関節固定術があり、どれが適しているかは、患者さんの状態はもちろん、患者さんの目指すゴールによります。

捻挫を繰り返すことになりやすい変形性足関節症

「捻挫を繰り返すことで足の外側のじん帯がゆるみ、関節のすきまにある軟骨が削れていつてしまつて、痛みが出る病気です。後ろから見たとき、かかとが内側に傾いてしまつてい

る方が多いです。治療は手術か装具の着用となります。変形性足関節症で大事なことは、全員が全員同じ手術をしてもよくならないという事です。注意深くCTやMRIを撮り、変形の程度や内科的な合併症の有無も考慮し、これまでの治療経験から得た選択肢の中から、その人に適した術式を選びます」。

変形性足関節症の手術は大きく分けて①骨切り術 ②人工関節置換術 ③足関節固定術があり、どれが適しているかは、患者さんの状態はもちろん、患者さんの目指すゴールによります。

「患者さんが今何に困つていて、何ができないか。患者さんが生活上、困つてなければ、レントゲンやCTなど画像上の状態が悪くても、手術の必要はないと私は考えます。一方で、手術で強い痛みが改善する可能性があるのに、長い間、我慢している方が多くいらっしゃいます。その判断はやはり足を専門にしている人が診ないとわからなかつたりするので、痛みをそのままにせずに、ぜひ受診してほしいですね」。



①骨切り術



②人工関節置換術



③足関節固定術

Ogikubo Hospital Topics



桃井原つば公園ワクチン仮設会場前で物理部の皆さんと。設置の際にスタンドの微調整ができるよう、電動ドライバー持参で来ていただきました。

写真の足踏み式消毒スタンドは中央大学杉並高等学校・物理部の皆さんの手によるもの。少しでも医療従事者の力になればと、6月に3台ご寄贈くださいました。ブックエンドを用いた足踏み部分を踏むとアルコールがブッシュされるナイスアイデアなスタンドは昨年より校内16カ所で使用されているとのこと。生徒の皆さん、ありがとうございます。院内とワクチン会場でも、大切に使用させていただきます。

中央大学杉並高等学校の生徒さんより消毒スタンドを寄贈いただきました



上の記事の詳細は【荻窪病院 公式フェイスブック】でご覧になれます

